

「広報さつま」2018年9月号に、本校生物生産科果樹班の
さつま町への梨贈呈による表敬訪問が掲載されましたので
紹介します。

薩 実習を通し 自ら育て収穫する 摩中央高生が町へナシ贈呈

8月8日、薩摩中央高等学校の生徒たちが実習で育てたナシの贈呈式がありました。同校には県内の農業系高校で唯一のナシ園があり、生徒は剪定や摘果、袋掛けなど年間を通じて栽培管理を行っています。栽培面積は20アールで、豊水や新高、新興などの品種を栽培。贈呈式に出席した生物生産科3年生の南部武琉さんは「美味しいナシができました。かがんで作業をしないといけない袋掛けなど、栽培は大変でしたが、販売したときのお客さんの笑顔を想像して頑張りました」と収穫の喜びを述べました。



9月下旬まで収穫し校内で販売を行います



「広報さつま」2018年9月号